

幼児 カリフォルニア

英語だけ、日本語だけ、という教育よりも、日本語英語両方の言葉で同時に学べるのが、バイリンガル授業の利点だと、お母さん達は語っている。2歳半の子供を持つというお母さんは、「そのおかげで、子供の中で英語と日本語の境というものが自然に分かってきたようです」と語る。

集まったお母さん達の家庭のほとんどが、日本語環境にある

「言語よりも、 国際人となる 礎を築く」

カリフォルニア在住
Education Linkのお母さん方

ため、現在子供達の言語は日本語のほうが強い。が、「意識して日本語にさせたり、英語を強要したりということはない」というのが、全体的な意見だ。今現在、日本語を嫌がっているという子供はいないが、今まで「いち、に、さん」と

英語だけ、日本語だけ、という教育よりも、日本語英語両方の言葉で同時に学べるのが、バイリン

ため、現在子供達の言語は日本語のほうが強い。が、「意識して日本語にさせたり、英語を強要したりということはない」というのが、全体的な意見だ。今現在、日本語を嫌がっているという子供はいないが、今まで「いち、に、さん」と

と思いつつ見守っています」と、余裕のあるお母さんもいる。

本の読み聞かせはよくしているというお母さんが多い。しかしこれも日本語の本にこだわってはいない。「絵本は英語、日本語にかかわらず、いつもそばにあるようにしています。子供が読んでほしいという本をいつも読んであげています」という。

言葉の習得よりも、どちらかというと、豊かな人間性を育てることに重点をおいている。「日本に帰るまでに、英語を完璧にしてということは考えていない」というお母さんは、アメリカで幼児教育を受けることによって、自分と違う人達の中にも入って行ける性格、そしていろいろなことに興味をもてる人間に育ていける基礎のようなものが築ければよいと語っている。今後、帰国して日本語や日本文化の中にどっぷり浸かってしまっても、幼児の時に作られた本質は持ち続けることができる。「日本だけにいると、世界には違う言葉がたくさんあって、様々な異なる人達がいるということが理解しにくい」。それを学べるアメリカという環境を最大限利用したいという。国際人になれる礎を子供達の中に育てられれば、というのがお母さん達の願いである。